

近江楽座

まち・むら・くらしふれあい工舎

「近江楽座」＝学生の力を生かして、地域に学び、育ち、貢献できる場

POINT 1 学生主体で活動

学生ならではの視点で地域の課題や魅力を見出し、プロジェクトを発足。厳正な審査で採択されたプロジェクトは、経費や教育指導等の支援のもと活動します。



POINT 2 幅広い分野の地域課題

これまで培ってきたノウハウや地域とのつながりを生かし、さまざまな分野の地域課題に取り組んでいます。

活動テーマ例			
子ども	教育	福祉	健康
生活文化	伝統	調査	環境
防災	復興支援	まちづくり	ものづくり



POINT 3 多様な活動形態 目的や内容など、多様な地域活動に合わせたプロジェクトのタイプがあります。

▶ Aプロジェクト／学生主体型プロジェクト

SDGsの視点も踏まえ「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を募集します。

新規プロジェクト・継続プロジェクト

22年間で延べ492のプロジェクトが活動しています。

Sプロジェクト

大学からの活動助成金を必要とせず、これまでの実績をもとにステップアップを目指すプロジェクト。



未来看護塾

人間看護学部の学生が中心となって立ち上げた地域貢献プロジェクトです。地域に住むさまざまな人々が、心も体も生き生きと健康な生活が送れるよう健康支援等の活動を行なっています。



あかりんちゅ

寺院で廃棄されるロウソクを使ってリサイクルキャンドルを製作、商品として販売したり、キャンドルナイトやキャンドル手作り教室を開催する等、地域の方々と繋がりを持ちながら環境について考えてもらう活動をしています。

▶ Bプロジェクト／地域協働型プロジェクト

自治体や企業、団体などから依頼のあった課題の中で、学生が中心となって取り組むことがふさわしいものについて、学生主体のグループを募集。指導教員と地域共生センターおよび依頼先とが協働でプロジェクトに取り組みます。

学生の声 かみおかべ古民家活用計画

菊島 陽二郎さん
(人間文化学部 人間関係学科 4回生)

近江楽座の活動を通じて、イベント開催などによる地域活性化に取り組みました。その中で、人を巻き込み、楽しませながら場をつくる力を学びました。この力は、社会に出た後も人や組織を動かす上で役立つと考えています。地域に根付いたこの大学だからこそ身についた学びです。



学生の声 竹林GAKU

笹原 彩恵子さん
(環境科学部 生物資源管理学科 4回生)

今年度は、竹林整備のような団体が掲げる目標に根差した活動の他に、地域の団体へのコンタクトやイベントへの挑戦を通して様々な経験や考えに触れて、従来の竹林GAKUにはなかった新しいアイデアを活動に取り入れることができたように思います。また、外部の取組を知ることでより一層現状への危機感を持って活動できました。



学生の声 ボランティア部Harmony

塩見 凜さん
(人間文化学部 人間関係学科 4回生)

知的障がいのある方々との関わりは模索しながらも充実しており、心が通う瞬間には大きなやりがいを感しました。コンサート運営や日帰り旅行では、普段のサポートメインの活動とは違い、楽しく積極的に活動できました。代表として地域と向き合った経験を通じ、学生主体で企画・活動できる近江楽座の強みを実感しました。



学生の声 MINOIII CRAFT

岡本 志保さん
(環境科学部 生物資源管理学科 2025年度 卒業生)

今年度も定期的に箕川町を訪れ、地域のイベントに積極的に参加し、お手伝いすることで、地域の方々と交流を深めることができました。また、古民家や周辺の清掃、山里ならではの体験を自分たちで身体を動かして行うことで、チームメンバーの地域への愛着や活動への参加意欲が高まっていると感じました。



BAMBOO HOUSE PROJECT
放置竹林問題について地域と学生が協力して解決を目指します



政所茶レン茶
政所町で茶葉を栽培し、その文化を守りながら政所茶の魅力を発信しています



CEBU PARIAN PROJECT
廃プラスチックの活用を通してフィリピンの子どもたちや女性を中心に支援しています



スチューデント・キュレイターズ
地域の文化財の調査・保護を行い、企画展の開催まで手掛けています



おとくらプロジェクト
伝統的な蔵を持つ古民家をカフェやギャラリーに改装、高宮町に新しい風を吹かせます



座・沖島
「まなぶ・まじわる・ささえる」をモットーに、沖島を未来へつないでいきます



ボランティア部Harmony
障がい児・者の自立支援や余暇の充実に取り組んでいます



近江楽座イメージキャラクター
MEIMI



リソース
地域で栽培した野菜を地元マルシェで販売したり、小学校での活動を通して地域のみなさんと繋がります



廃棄物バスターズ
研究活動で得た専門性を地域に還元し、廃棄プラスチック問題の解決を目指します



琵琶湖RYUBOKUプロジェクト
流木を通して環境問題を考え、地域に憩いの場を提供します



やえのわプロジェクト
多賀町八重葎地区をフィールドに、空き家を改装し、地域の方々と交流できる空間づくりを目指します

「近江楽座(おうみらくざ)」とは?

滋賀県立大学の「スチューデントファーム「近江楽座」—まち・むら・くらしふれあい工舎—」は、地域貢献を目的とする学生主体のプロジェクトを募集、選定して、全学的に支援する教育プログラムです。

2004年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」に採択され、その活動実績が大学発地域貢献の先進的な取り組みとして、学内外で高く評価されました。2007年度からは大学独自の予算を用いてプログラムを継続し、これまでに培ってきたノウハウや地域とのつながりを生かし、更なる活動を展開してきました。なお、「近江楽座」は2025年度までで、延べ492のプロジェクトに10,000人以上の学生が参加しました。



近江楽座
公式Instagram



近江楽座
公式サイト

